

6 評価対象課題の研究内容と評価結果(概要)

研究課題	2   食品中の放射性物質測定に関する研究 (26-28)
研究目的・背景	流通食品群の放射性物質検査について、これまでの緊急的な対応から、長期的な対応で行うためのゲルマとNaIのデータの整合性をとる必要があり、そのための精度の高い分析法の確立を目的とする。
研究内容	(26年度～28年度) <ul style="list-style-type: none"> <li>・26年度 食品群の種類による前処理方法と放射性物質測定結果に対する影響</li> <li>・27年度 食品群の種類による測定条件と放射性物質測定結果に対する影響</li> <li>・28年度 食品群の種類による測定方法と放射性物質測定結果に対する影響</li> </ul>
評価結果	○総合評価 A(2人)・B(4人)・C(人)・D(人) ○総合意見 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲルマとNaIでの放射性物質濃度の測定値の整合性や前処理方法の検討という非常に緊急に解決すべき課題である。岩手県の農作物や食品の現状を考慮すると、もっと短い期間で研究を遂行していただきたいという趣旨でBの評価としました。地元の公的分析機関として、得られた情報の速やかな発信と県内で分析している機関等との研究会(勉強会)によるクロスチェックや分析の指導をお願いします。</li> <li>・県民の関心の高いテーマであり重要であるが、本研究テーマをより意義のある研究とするためにはより大きな研究体制で、予算も十分確保すべきと思われる。</li> <li>・広く普及している簡易型スペクトロメーターの精度を検証し、かつその有効性を示すことにより県民に対して安心、信頼を提供するために早期に取り組むべき課題。</li> <li>・食品中の放射性物質の測定値については公表されてきているが、これまでわが国で行われている測定法に対して、これから行う研究成果をどのように反映させるのか？</li> <li>・緊急かつ重要な案件であり短期間で成果を上げる必要がある。</li> <li>・ぜひ実施すべき研究価値の高いテーマである。早期の実用化を期待している。</li> </ul>
センターの対応方針	1 研究計画のとおり実施  (コメント) 本研究により、食品群の種類による前処理方法や測定条件の提示を目指し、分析を行っている自治体や検査機関へ情報提供できるよう取り組みたい。また、食の安全安心は県民の関心の高いテーマであり、早期に取り組みを開始したい。